

9 外貨建取引

外貨建取引—外貨(ドル、ユーロなど)で表示されている取引のこと。仕訳をしたり、決算書を作成したり際には円換算する。

(1)外貨建取引の処理

・3月1日、アメリカの取引先に商品20ドルを輸出し、代金は掛けとした。3月1日の為替相場は1ドル110円である。

・上記の取引について、決算日(3月31日)の処理を行う。決算日の為替相場は1ドル108円であった。

・5月1日、上記取引の代金20ドルの送金があり、円に両替して当座預金に入金した。この時の為替相場は1ドル106円であった。

・×年1月25日に、アメリカの得意先A社に商品200ドルを輸出した。代金について、50ドルは前受金(1月10日受取り)としてすでに受け取っており、残額は掛けとした。為替相場は、1月10日は1ドル105円、1月25日は1ドル109円である。

(2) 為替予約

決済時の為替相場によることなく、あらかじめ約束(契約)した為替相場で決済を行うこと。

・3月15日、当社は海外の取引先に商品30ドルを販売し、代金は1か月後に受け取ることにした。販売時の為替相場は1ドル110円であったが、先物為替相場(予約レート)1ドル108円で為替予約を行った。

・3月31日、上記取引について決算の処理を行う。決算時の為替相場は1ドル108円であった。

・4月15日、上記取引の代金30ドルが支払われ、円に両替して当座預金入金した。4月15日の為替相場は1ドル106円であった。

・2月1日、海外の仕入先より商品40ドルを掛けで仕入れた。その際の為替相場は1ドル112円であり、掛代金の決済予定日は5月30日の予定である。

・3月1日、上記取引について銀行との間で40ドルについて1ドル110円で購入する為替予約契約を締結した。差額は予約日の属する期の損益として振当処理する。予約日の為替相場は1ドル111円である。

・3月31日、上記取引について決算の処理を行う。決算時の為替相場は1ドル108円であった。

・5月30日、買掛金の決済日となり、当座銀行から支払った。決済時点の為替相場は1ドル107円であった。

(148 回 1 問)先日、商品を 400,000ドルにて米国の顧客に掛けで売り渡し、適切に処理していたが(取引時の直物為替相場 1ドル= ¥115)、今後円の為替相場が上昇するリスクに備えて、全額1ドル= ¥113 にてドルを円に売却する為替予約を締結した。ただし、当該売掛金の円換算額と、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として振当処理を行う。

(152 回 1 問)X 年 8 月 1 日、1 か月前の 7 月 1 日の輸入取引によって生じた外貨建ての買掛金 40,000 ドル(決済日は X 年 9 月 30 日)について、1ドル¥110 で、40,000ドルを購入する為替予約を取引銀行と契約し、振当処理を行うこととし、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理する。なお、輸入取引が行われた X 年 7 月 1 日の為替相場(直物為替相場)は 1 ドル¥ 108 であり、また本日 (X 年 8 月 1 日)の為替相場(直物為替相場)は 1 ドル¥ 109 である。

(154 回 1 問) 海外の取引先に対して、製品 500,000 ドルを 3 か月後に決済の条件で輸出した。輸出時の為替相場は 1 ドル ¥ 110 であったが、1 週間前に 3 か月後に 300,000 ドルを 1 ドル ¥ 107 で売却する為替予約が結ばれていたため、この為替予約の分については取引高と債権額に振当処理を行う。

9 外貨建取引

(1) 外貨建取引の処理

・3月1日、アメリカの取引先に商品20ドルを輸出し、代金は掛けとした。3月1日の為替相場は1ドル110円である。

売掛金 2,200 / 売上 2,200

・上記の取引について、決算日(3月31日)の処理を行う。決算日の為替相場は1ドル108円であった。

為替差損益 40 / 売掛金 40

・5月1日、上記取引の代金20ドルの送金があり、円に両替して当座預金に入金した。この時の為替相場は1ドル106円であった。

当座預金 2,120 / 売掛金 2,160

為替差損益 40

・×年1月25日に、アメリカの得意先A社に商品200ドルを輸出した。代金について、50ドルは前受金(1月10日受取り)としてすでに受け取っており、残額は掛けとした。為替相場は、1月10日は1ドル105円、1月25日は1ドル109円である。

前受金 5,250 / 売上 21,600

売掛金 16,350

(2) 為替予約

・3月15日、当社は海外の取引先に商品30ドルを販売し、代金は1か月後に受け取ることにした。販売時の為替相場は1ドル110円であったが、先物為替相場(予約レート)1ドル108円で為替予約を行った。

売掛金 3,240 / 売上 3,240

・3月31日、上記取引について決算の処理を行う。決算時の為替相場は1ドル108円であった。

仕訳なし

・4月15日、上記取引の代金30ドルが支払われ、円に両替して当座預金入金した。4月15日の為替相場は1ドル106円であった。

当座預金 3,240 / 売掛金 3,240

・2月1日、海外の仕入先より商品40ドルを掛けで仕入れた。その際の為替相場は1ドル112円であり、掛代金の決済予定日は5月30日の予定である。

仕入 4,480 / 買掛金 4,480

・3月1日、上記取引について銀行との間で40ドルについて1ドル110円で購入する為替予約契約を締結した。差額は予約日の属する期の損益として振当処理する。予約日の為替相場は1ドル111円である。

買掛金 80 / 為替差損益 80

・3月31日、上記取引について決算の処理を行う。決算時の為替相場は1ドル108円であった。

仕訳なし

・5月30日、買掛金の決済日となり、当座銀行から支払った。決済時点の為替相場は1ドル107円であった。

買掛金 4,400 / 当座預金 4,400

(148回1問)先日、商品を400,000ドルにて米国の顧客に掛けで売り渡し、適切に処理していたが(取引時の直物為替相場 1ドル= ¥115)、今後円の為替相場が上昇するリスクに備えて、全額1ドル= ¥113 にてドルを円に売却する為替予約を締結した。ただし、当該売掛金の円換算額と、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として振当処理を行う。

為替差損益 800,000 / 売掛金 800,000

(152回1問)X年8月1日、1か月前の7月1日の輸入取引によって生じた外貨建ての買掛金40,000ドル(決済日はX年9月30日)について、1ドル¥110で、40,000ドルを購入する為替予約を取引銀行と契約し、振当処理を行うこととし、為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理する。なお、輸入取引が行われたX年7月1日の為替相場(直物為替相場)は1ドル¥108であり、また本日(X年8月1日)の為替相場(直物為替相場)は1ドル¥109である。

為替差損益 80,000 / 買掛金 80,000

(154回1問)海外の取引先に対して、製品500,000ドルを3か月後に決済の条件で輸出した。輸出時の為替相場は1ドル¥110であったが、1週間前に3か月後に300,000ドルを1ドル¥107で売却する為替予約が結ばれていたため、この為替予約の分については取引高と債権額に振当処理を行う。

売掛金 54,100,000 / 売上 54,100,000

$200,000 \times 110 = 22,000,000$

$300,000 \times 107 = 32,100,000$